

脱炭素先行地域への応募の結果について

選定結果について ※選定結果通知を要約

◆ 評価点

・未利用バイオマス(水草・農業残さ・街路樹選定枝・侵略的外来水生植物)を利用した有機たい肥化やバイオ炭化事業(特に、水草活用)。

・「重点選定モデル」

『施策間連携』・・・農地施用による環境保全型農業と教育を展開する波及効果が期待される。

『生物多様性の保全との統合的な取組』・・・侵略的外来水生植物をバイオ炭にする取組は、全国的社会課題である外来種対策にもなる。

◆ 課題点

・設定エリア内の全ての需要家を対象にしておらず、合意形成ができていない。

・農業従事者等の関係者との協議を着実に進め、PPA 事業の採算性が確保できるようにすること。

・ゼロカーボン・キャンパス WG の幹事大学である立命館大学は、交付金(公費)を活用するならば、大学の知見の共有にとどまらず、人材育成を始め地域に裨益する取組となるよう検討が必要。



草津市の提案内容は不採択

今後の方向性について

●次回 先行地域への応募について

・第4回目より合意形成状況の審査が厳しくなっており、応募の時点で設定エリア内の全ての住民・事業者の合意を得ることは事実上不可能。

・共同提案者のPPAによるスキームでは、太陽光発電により市域で作られた高圧電力を、低圧電力を使用されている需要家(住民・事業者)に系統電力網を介して送電をすることができず、また、サービス料金が高額になることから、採算性が確保できない。



**次の応募までの短期間に住民や関係者の合意を得ることは不可能であり、
次回の応募は断念せざるを得ない**

●今回の応募で評価された点(事業)や、元々市の事務事業(公共施設)の取組として検討していた事業については、事業を所管する部署との協議を引き続き行う。

●市域全体としてゼロカーボンシティに向けた取組を推進していくために、市のフレームとなる次期草津市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定作業を着実にを行う。